

## 2025 年度第2回 学校関係者評価委員会 報告書

学校法人山口学園 ECC 国際外語専門学校は、「学校関係者評価委員会規定」に基づき  
2025 年度第2回学校関係者評価委員会を実施いたしましたので、以下の通り報告いたします。

1 実施日時 2026年2月7日(土) 14:00-16:00

2 実施場所 ECC 国際外語専門学校 1号館7階701教室

### 3 学校関係者評価委員 ※順不同

#### (1) 関連業界等関係者

委員長	五十嵐 駿太 氏	株式会社 With The World 代表取締役
企業関係者	國府 昭義 氏	HOTEL THE MITSUI KYOTO 副総支配人/人材開発部長
高等学校関係者	貴治 康夫 氏	立命館中学校・高等学校 教員
地域関係者	中上 隆雄 氏	済美地域社会福祉協議会 会長
保護者代表	高田 由紀子 氏	国際エアラインコース2年生保護者
卒業生代表	荒木 駿汰 氏	2020年度海外インターンホテルコース卒業(欠席)
卒業生代表	小笠原 梨乃 氏	2023年度エアラインコース卒業(欠席)

#### (2) 同席者

大谷内 圭	ECC 国際外語専門学校 校長
東井 喜美	ECC 国際外語専門学校 副校長
榊原 悠祐	ECC 国際外語専門学校 教務課責任者
中務 晃子	ECC 国際外語専門学校 教務課英語チーム
南條 祐麻	ECC 国際外語専門学校 入試課責任者
杉田 典彦	ECC 国際外語専門学校 キャリアセンター責任者
里 才門	ECC 国際外語専門学校 教務課専任教員
山本 静香	ECC 国際外語専門学校 教務課(書記)

### 4 報告内容

#### (1) 開会挨拶【大谷内】

- ・第1回目で委員から頂いた意見を学内で話し合った結果を共有。
- ・2/2：今年度授業終了。進級生は就職準備本格化。
- ・3/11：卒業式、4/7：3校入学式。3月に教職員に運営方針説明予定。

#### (2) 2025年度第1回学校関係者評価委員会検討事項の対応について【各関係部署責任者】

##### 自己評価報告書：基準3(教育活動)【榊原】【里】

- ・指導案を用いたクラスビジットの実施  
→重点コースである日本語授業(日本語主任を配置)から実施し、他コースに展開予定。
- ・教育評価基準におけるアンケートの見直し  
→評価を整理。主任教員・一般教員の役割が異なるため基準をそれぞれ変更。  
→業務遂行力・改善する力(行動力)・人間力(信頼関係の構築)を元に評価。
- ・成果発表会の在り方の転換(聴衆参加型への移行)  
→英語重視の総合英語コースにおいて「Global Education Awards」を成果発表会の1つとして位

置付けた。コース内で予選実施。「全日本 ECC 英語スピーチコンテスト」において総合英語コースの学生が 1 位（去年は 3 位）

#### 基準 4（学習成果）【杣田】

- ・留学生が関心を持てる工夫をしたか  
→留学生内定率：グローバルビジネスコース 98.3%、グローバルホテルコース 85%  
→学生の 2 倍の求人必要。73 社を新たに開拓（説明会参加→企業訪問と地道な努力）。
- ・観光案内のボランティアを導入する  
→大阪メトロアドエラ様の大阪ガイドのアルバイト説明会に 8 名参加。1 名合格（N1・TOEIC960）。

#### 基準 5（学生支援）、基準 6（教育環境）【榊原】【里】

- ・留学プログラムの充実（点から線の教育プログラムへ）  
→オーストラリア 3 ヶ月留学に 5 名参加した。英語で学ぶ環境。自己投資。「どのような自分になりたいのか」を事前に入念に確認。渡航前の意識づけ・留学中のサポート、帰国後の進路に繋げる。  
12 月に帰国し全員が 1 月に就職活動を開始
- ・保護者向けの対面就職ガイダンスの必要性  
→48 名の保護者が参加。保護者との連携を大切にしながら学生の夢の実現に向けて取り組む。

#### <質問・意見>

##### 【貴治】

- ・評価される側の納得度が重要。評価面談時に評価される側の主張も聞く機会はあるのか→ある【榊原】  
人間同士なので信頼関係が大事。モチベーションに繋がる。
- ・半強制的な関わり・事前学習の重要性。学生の動機付け→先生方の成果。求人開拓→意欲的な試み。

##### 【國府】

- ・新しい取り組みを通して結果を共有頂けることは素晴らしい。
- ・半強制的に取り組ませることは大事。昨今、自発性（底辺を上げる。底上げをする）のみでは難しい。

##### 【中上】

- ・至れり尽くせりされている学生は大変幸せだと思う。

##### 【高田】

- ・保護者向けガイダンスは素晴らしい。留学・就職は保護者も不安。留学して終わりにしない取り組みは素晴らしい。本人は達成感を持って帰国。目つきが変わり意欲的。渡航前に目的を明確にもらったからこそ今がある。発表会など振り返ってまとめる作業は必要。エントリーシートに書く引き出しが増え、精神力・忍耐力がついた。主体性を持って行動できるようになった。留学ありきの学校にしてもらいたい。コミュニケーションは大事。海外で多国籍の言葉を聞いて視野を広げてもらいたい。

##### 【五十嵐】

- ・留学に関する言語化の取り組みはどうか  
→テーマを持って留学（文化体験など私はこれを学びに行く）。英語だけでなく何を学んだか。「最もびっくりした瞬間」「自国文化との比較」など発表・面談・エッセイなど英語で表現する機会を設けている。【里】→帰国後の振り返りを先生が壁打ちをすることはとても良い取り組み。【五十嵐】
- ・業務遂行力などの 3 要素→自社でも評価（会社の期待値とのギャップ）された後のフィードバックが億劫という匿名社員の意見あり。「自分のありたい姿」に対してのギャップを一緒に埋めていくための面談なら効果的に捉えられる。

#### 基準 7（学生募集と受け入れ）【南條】

- ・中堅層の進路選択（職業観の薄い高校生に早期に進路を狭めすぎるアプローチは逆効果の可能性あり）

- 3年制コースは1年次修了時にコース変更を可とするカリキュラム・仕組みづくりを導入する。
- ・本校に興味を持つ高校生の特徴（英語に興味・関心のある生徒→英語ブランド力のアピール）
  - オープンキャンパス（以下OC）にてレベル別体験レッスン（英語・韓国語）を実施。
  - 「好きな語学を活かして働く」をスローガンに。就職率だけでなく語学活用就職率を意識し訴求。
- ・情報発信（Instagram）更新頻度が低い、発信ボリュームが少ない
  - コース毎のアカウントを学校アカウントに一本化し、メインアカウントを充実させていく予定。

### レジリエンスを育む経験や機会【東井】

- ・小さな成功体験が重要。セーフティゾーンから出る体験を通して学びが得られる。
- ・ボランティア活動：現場体験で自己肯定感を高められる。
- ・全員留学：振り返りの機会が多く失敗を学びに変えられる機会・自己効力感・他者の学びに繋がる。
  - 経験・機会を増やす。振り返りの機会をしっかりと活かす。挑戦を肯定する学校の文化を醸成する。

### ＜質問・意見＞

#### 【貴治】

- ・この学校の特色は専門学校＝実践力。英語を使って何をするか。語学を学ぶ、社会に出てどうするか  
が大事。OCで航空業界の卒業生を呼びなど良く考えられた取り組み。高校生は大学進学がメインの  
ため、専門学校生の方が社会に出てからのことを真剣に考える機会が多い。留学とボランティア活動  
を兼ね合わせてはどうか。立命館高校ではフィリピン・ラオス研修を実施（小学校で子ども達と交流）。

#### 【國府】

- ・学生の募集・受け入れ・出口→柔軟なところが素晴らしい。
- ・ECCは大学と異なり使える英語・韓国語を教えるところが強み。その魅力を発信して募集に繋げて  
いる。英語を使った職種→エアライン・ホテルのイメージがあったが、昨今どの業界でも英語を使う。  
もう少し広い視野で職種を見ても良いのではないかと。

### (3) 2025年度振り返り（募集・教務・進路）【各関係部署責任者】

#### 2025年度新たな取り組み【東井】

- ・グローバル英語コース：
  - グローバルチャレンジ専攻新設（海外ボランティア・海外インターンシップ）
- ・グローバルビジネス・グローバルホテルコース：119名に増加
- ・職業実践専門課程申請中（2学科）
- ・学生のモチベーションアップへの仕掛け：ライセンス表彰・パティフェスティバル実施
- ・保護者連携強化：保護者会・茶話会開催
- ・卒業生連携：同窓会開催
- ・就職指定校推薦枠拡充：日本通運株式会社締結

#### 入試課【南條】

- ・2025年度募集（2026年4月入学）は留学生増、日本人横ばい。
- ・3年制減、2年制増（全員留学＝1年休学して海外インターンシップ希望の学生増）。
- ・韓国語減（独学で韓国語を学び韓国大学ストレート進学、大学の韓国語系コース増）（内部の肌感覚）。
- ・ホテル減、エアライン・英語増。大学編入は3月頃に駆け込み出願見込み。
- ・入学者数目標：410→446名入学（日本人214名→到達まであと40名程度）。
- ・来校者内訳：ECC第一志望・大学→横ばい、その他（進路未定）→増（進路保留層増）、韓国語最多。
- ・イベント内の工夫、電話フォロー、不安解消・学び方の説明などの誘導、設計に取り組む予定。

#### 教務課【榊原】

- ・授業満足度アンケート目標 4.40 に対し 4.35（前期）4.28（後期）  
背景：①目的・ゴールが十分伝わっていない ②授業内説明不足 ③教員の関わり方 ④出欠・評価

のルールが講師により異なる（不公平感） ⑤学習内容・資格・進路に繋がっている実感が薄い  
→シラバスにおける目的・評価の明確化・授業の質の両輪を高める。

・進級・卒業率

→進級率 95.3%、卒業率 98.3%

→背景：①教職員連携 ②保護者連携 ③出席不良者の徹底 ④学内外での居場所の確保  
⑤努力・成果の可視化（検定優秀者セレモニー）40名程度対象（全員参加）

・留学生コース

→100名増（全学生 586名のうち約 200名が留学生）。

→「何のために日本に来ているのか」を教職員が強調。明確な目的意識・動機に繋がっている。

→日本語力卒業時 N2 レベル、内定率 90%

→要強化点：①体制整備（担任・教務課・キャリアセンターの役割分担）②日本語教育の整備 ③学力差に対応したカリキュラム整備 ④レベルに応じた到達目標・進路開拓 ⑤ミングル教育の充実（バディフェスティバル満足度：真夏のボーリング大会 4.77、学園祭でのクイズ大会 4.89）

英語教育【中務】

・英検 2 級：受験者数激減。1 次合格率 42%（昨年 29.6%）。第 3 回は含まず。

・TOEIC：横ばい。1 年次 T450/英検準 2 級以上 53.7%（昨年 54.6%）、2 年次 T600/英検 2 級以上 36.3%（昨年 48.4%）

・アングリシア：C2→1 名、C1→2 名、B2→17 名、B1→44 名など 89 名受験（昨年 93 名）

・新 1 年：新カリキュラム（卒業時 CEFR B1 以上目標）。自律学習を目的とした Weekly English Goals 科目の設置（70.2%の学生が自律学習が身に付いたと実感）。理論を以て講師のスキル向上予定。

就職【杉田】

・内定率：93.5%（昨年 96%）、語学系 90.5%（昨年 93.3%）

・CA 内定 14 名：JAL 2 名・ANA 2 名・スターフライヤー 4 名（同一年で 2 回受験可）など。  
CA・GS 就職率 94.1%（昨年 68.4%）

・ホテル：HOTEL THE MITSUI HAKONE、ヒルトンなど。

・留学生の内定率が日本人を牽引。留学生の努力の結果。売り手市場で求人多い

・地上職：今年は厳しい（エアラインコース生でも書類選考通過ならず。大学生採用試験のようにエントリー時期が後ろ倒し。中国便減、就業高条件に伴い離職率減が影響）。

<質問・意見>

【國府】

・英語・グローバル教育→日本のこと・文化を英語・韓国語で伝えるプログラムを実施してはどうか（留学生も含め）グローバルだからこそ日本を知ることが必要。

【貴治】

・満足度アンケート→3 項目は教員に関わる内容。1 クラス 20 名前後なら講師が対応可能なレベル  
→講師対象オリエンテーションを工夫して伝達内容を検討。他要因の可能性あり【榊原】

・英語：Weekly English Goals の新教科書を作成→モチベーション向上のヒント、低下時・中だるみの時期に拠り所にできるような内容。学習トレーナーによるガイダンス・自学習などで活用【中務】

【五十嵐】

・大阪私学の高等学校無償化 4 5 万円/1 年間開始。文科省も 3,000 億円をかけ語学系公立高校の強化  
→その延長で学生を受け入れられるのではないか。質向上重視。コストをかけてでも自身の人生を変える可能性のある経験を提供できるのではないか。大学の専門学校化→大学検討層が専門学校の OC に来る理由（インサイト）が分かると良いのではないか。メンター制度のように入学予定者が在校生といつでも繋がれるのは良い→等身大の質問可。安心感に繋がる。

- ・校内での留学生・日本人の繋がりは確立済。「仕事を通じた日本人との繋がりはあるがプライベートを通じた繋がりが難しい」という声を聞く→ボランティアができるかと相乗効果。地域活性化に繋がる。

#### (4) 2026年度学校運営について【大谷内】

- ・目指す学校増（中期計画の3年目）。専門性×グローバルスキルを身付ける。  
スローガン：レジリエンスを纏った人材育成

##### 変更点

- ・留学生 170 名を迎える（過去最大）勉強熱心な学生が集まっている。20～30 名キャンセル待ち。卒業生からの口コミ・日本語学校からの推薦などが要因。中身をより強化し競争力のある体制作り。日本語教師不足。日本語を勉強しながら専門性を身に付け、就労ビザをとって就職を目指す。
- ・全員海外経験制度スタート  
（株）ECC 海外留学斡旋部門を介す（行先を自身で選択）。チャレンジ系の留学。有給インターンシップの国を増やす方向（ドバイのホテルでのインターンシップは卒業後に就労も可）。
- ・高等部（サポート校）募集終了（高等部・学園高校のダブルスクールなど認知が課題）→学園高校にて新コース（海外留学を目指す正規課程）設置。
- ・学校教育法改定（専門学校が大学のルールに近づいていく）  
専門学校＝職業訓練校（時間制）→大学（単位制）。編入・大学院進学が容易（一般化）になる予定。  
出席条件・1 週間の開講科目数が異なる。2026 年度生のみ対象（時間制と単位制がしばらく混在）。

#### (5) 全体総括【五十嵐】

- ・前回の課題に対して事例をこの場で共有してもらえたことに感謝。本日の意見を元に一緒に取り組んでいきたい。学校と保護者が二人三脚でお互いを認識し、お互いの考えを共有することが重要。  
→純粋に感じたことをお話しできる温かいぬくもりのある会議。大満足している娘を見ると入学できて良かった。OCは実践的な体験ができて鳥肌が立つほど良かった。夢が近づいた【高田】

#### (6) 閉会挨拶・まとめ【東井】

第 1 回委員会での意見を踏まえ、第 2 回は学校運営および教育活動の改善策を報告した。その結果、本校の方針は概ね妥当であるとの確認を得た一方、新たな助言もいただくことができた。変化の激しい教育現場において、レジリエンスを備えグローバル社会で活躍できる人材を育成するには、多角的かつ斬新な視点を持ち続けることが不可欠である。委員会からの指摘をはじめ、業界のニーズや保護者の声は、学校側の視野を広げる重要な契機となる。こうした外部からの気づきを具体的な行動改善へと繋げ、今後も真摯に教育の質向上に取り組んでいく。